

「祈禱書」ってなんなの？

- ・ 英国の宗教改革における最も重要な果実（A p35）
 - ・ 1549年 第一祈禱書（トマス・克蘭マー カンタベリー大主教）
 - ・ 信徒と聖職が交互に唱える礼拝方式の策定
 - ・ ラテン語ではなく、母国語（英語）での礼拝
 - ・ 40～50年程度で作り変える
 - ・ 人が使う言葉は40～50年程度で変化するので伝道的観点から、より分かりやすくする為（聖歌集も同じ）
 - ・ 公禱の式文が網羅されている
 - ・ 全世界的視点で共通のものを守る姿勢
当初は第一祈禱書の翻訳である事が重要視されたが
ランベス会議での指針および原則（後述）を守る事を条件に地域性などが許容された。
日本において顕著なのは「通夜の祈り」
- ・ 1958年に開かれたランベス会議で、祈禱書改正に関する指針
 - 1) 「異なった伝統を有する諸教会の教理的、礼拝的事情における一致を見出そうとする現在の動きを歓迎する。」
 - 2) 「経典（聖書）信経、洗礼、堅信礼、聖餐、聖職按手の使用」に注意を喚起し、その他、祈禱書中には、アングリカニズムの伝統的な教理的強調と教会文化の維持を有効にする」
 - 3) 保存されるべき特徴があることに注目し、祈禱書の改正の主眼が、英国教会の第一祈禱書編集者たちの目的であった「初代教会の礼拝の回復を一層深めるものであることを要望する。」
- ・ 祈禱書改正について、ランベス会議（1958年）が出した原則
 - 1) 聖書の使用
 - 2) 使徒信経とニケア信経との使用
 - 3) 父・子・聖霊の名による聖洗式文
 - 4) 主教の按手・祈禱をともなう按手式文
 - 5) パン・ブドウ酒・主の命令に従おうとする明確な意図がある聖餐式文
 - 6) 主教の按手・祈禱をともなう三聖職位への叙任という項目が保たれている祈禱書が聖公会の統一を保ち得る。

参考資料

A 聖公会が大切にしてきたもの 西原廉太司祭